

「手の表現と可能性を探って」

西形節子

《日本舞踊》

一実演者紹介—藤間蘭黄（日本舞踊家。慶応義塾大学卒。重要無形文化財保持者・藤間藤子の孫、藤間流代地の師匠と呼ばれる後継者。芸術祭新人賞、舞踊批評家協会賞新人賞、花柳寿応賞を受賞）

1. 手の基本位置（方向性）

日本舞踊・古典舞踊の場合は、特に歌詞につかはずはなれずの振付が多く、その動作は物真似的表現—しぐさ（身ぶり）が主となる。したがって、手の表現も複雑多岐にわたり系統的に分解、整理することは困難である。さらに、老若男女・階級・職業などによる役柄があり、同じ意味の手の表現でも、それぞれ役柄によって現し方が異なってくる。手の表現にも複雑な性格があるといえる。

なお、手の動きは、肩、腕、肘、手首、掌と連動することはいうまでもない。基本となる構えの動作において、男女の体型を表現するには二の腕の筋肉の返し方で異なる。男は肘を張り、女は張らずに肩を落とす。次の基本の動作には、掌を開ける、伏せるがある。方向性は、上下・前・左右・斜めと観客に向かっての演技が中心となる。後ろの方向への表現は、帯を持つ、または特殊な場合（「うしろ面」顔の前後に二つの面をつけ、二役を踊り分ける作品。後ろ向きで踊るアクロバティックな演技）などがあるが、平常はあまり用いられない。基本の位置を実演。

- A. 上下——上げ、下ろし。あげ、ふせ。流す。くぐる。
- B. 前後左右—開く。抱く。切る。出し、引き。すくう。回す。
- C. 斜め——くる=すくう。流す（巻いてすてる）。おくる。
- D. 両手——手拍子。打ち上げ、打ち下ろし。掌返し（交互に、同時に）

2. 手の基本動作

A 手と指は、手首から先の表現を中心の基本動作、B 指の表現は、ある意味をもった約束事の表現、C 手と体は、手と連動する基本動作を実演と解説で見せる。

A. 手と指

- ①握る。（拳の握り方は役柄によって変化する。）
- ②開く。（同上。老若男女、荒事など。）
- ③受け、伏せ。（手の甲を返す。）
- ④反らせる。（指を揃えて動作する手。通常の基本形。）
- ⑤指す。（人差し指で、指す動作。老若男女

あり。）

- ⑥かざす。（頭上にあげる手。掌の返し方で見る、避けるなどの表現が変る。）
- ⑦くねらす。（手首の動作。片手・両手あり。招く、打つ、捨てるなど表現。）
- ⑧かいぐり。（修飾の手。両手を重ね、くねらす動作。）
- ⑨特殊な指（獣手—狐・猫・鼠・獅子の表現。幽霊手。鬼の手。）

B. 指の表現

- ①男と女（親指と小指）
- ②夫婦指（両手の人差し指を並べる。）
- ③縁結び（両の小指を組ませる一指切り。）
- ④組む（両手の指を組み、返す。）
- ⑤その他（紅—薬指。花を咲かせる。稲穂。眼がねなど。）

C. 手と体

手拍子（両手を打ち合わせ。）を基本とした拍子のバリエーションで、足踏みなども加わる。

- ①渡り拍子（肩→膝→頭上。手首→膝→前＝三つ渡り）
- ②足拍子と連動して……
ヤットン拍子・六拍子。膝拍子。床拍子など。

3. 手の表現《実演》

作品の一部を踊り、手の動作がどのような表情をもつかを見る。

- A. 『手踊り』（VTR）藤間蘭黄の実験的創作、体を黒衣に包んで隠し、手先の動きだけにライトを当てた作品。曲は『七福神』
- B. 『吉野山道行』の一部。狐忠信が義経の愛妾静御前に、旅の無聊を慰めるため、源平の合戦・屋島の「物語」を踊る場面。扇を刀・薙刀の武器に見立てて、戦闘の有様を物語る。（男の踊）
- C. 『年増』の一部。「しゃべり」という手法で、恋の経緯を物語る女のしぐさ、日常の描写を見せる女の踊り。

以上。